

## Harvard Health 誌は何を考えているのでしょうか？



Steven Hentges, Ph.D

2020年12月14日(月)

Posted in SAFETY

数日前、Harvard Health 誌はオンラインニュースレターで、「BPA は今や早死に関連している」という興味をそそられるタイトルの[短い記事](#)を発表しました。この記事では、その結果を主張する BPA に関する[最近発表された研究](#)について簡単に説明しています。

記事の著者とニュースレターは、その研究が実際にそのタイトルを裏付けるものかどうかを評価するために注意深く調べなかったか、あるいは少なくともその研究の重大な限界を理解していなかったようです。BPA は、商業的に最も徹底的に試験を行っている物質の一つであるため、そのタイトルが科学的データに裏付けられているかどうか、あるいは科学的にもっともらしいかどうかを容易に評価することができます。

ヒトを対象とした数多くの研究から、BPA 曝露は極めて低いことがわかっています。最も有名で最大規模の曝露研究は、米国疾病予防管理センター (CDC) が米国で実施した米国国民健康・栄養調査 (NHANES) です。この調査では、単一のスポット試料 (BPA の場合は尿ですが...) を分析することで曝露量を測定しています。

NHANES による BPA 曝露結果は、[世界中で実施した同様の研究結果](#)と一致しています。これらすべての研究結果は、BPA 曝露が世界中の政府機関が設定した安全曝露限界を遥かに下回っていることを示しています。

またヒトや実験動物を用いた研究から、BPA は曝露後、生物学的に不活性な代謝物に変換され、体内から尿中へ素早く排泄されることがわかっています。

す。人間のボランティアによる研究から、体内の BPA の半減期は排泄されるまでわずか数時間であることがわかっています。

この特徴だけを以て Harvard Health 誌の見出しや最近の研究の結論は非常に信憑性に欠けるものと言えます。ヒトへの曝露源として NHANES のデータを使用した最近の研究では、BPA 曝露及び排泄後の死亡率が、中央値で 9.6 年という長い期間にわたって記録されています！

10 年近く前に生じた曝露と BPA の健康影響がどのように関連しているかを想像する事は本質的に不可能です。何年も前に発生した BPA 曝露と慢性的な健康影響を関連付けることは数学的には可能かもしれませんが、数学的関連性が科学的にもっともらしいという意味ではありません。

そのような信じ難い結果が報告されたのはこれが初めてではなく、おそらくこれが最後でもないでしょう。それにもかかわらず、他の研究者らはこの問題を認識しており、科学文献に彼らの見解を発表しています。たとえば、最近のとある出版物のタイトルは、特に目下の事例に関連しています。「NHANES データを使用して化学物質曝露と慢性疾患を関連付ける: 警戒的すべき話」。

十分に根拠のある科学的理由から、最近の Harvard Health 誌の記事のタイトルについて心配する必要はありません。BPA が早死と関係があると結論付ける信頼に足る科学的根拠はありません。BPA に関する最良のアドバイスは、米国食品医薬品局(FDA)の Web サイトの Q&A から得られます。「BPA は安全ですか? はい。」と。